



高知県

第 38 号 2005 年 1 月

農業技術センターニュース

目		次		
	露地シシトウガラシの新病害 「葉枯細菌病（仮称）」	… 1	 蒔培養で単為結果性高知ナスの 品種改良をスピードアップ	… 4
	安心野菜づくりに向け最新機器導入	… 2	 オリエンタル系ユリにおける切り下球を 利用した新作型の開発	… 5
	携帯型光センサーによるブンタンと 高糖度トマトの非破壊糖度測定法	… 3	 近紫外線除去フィルム、緑色蛍光灯、防虫ネット を利用したお礼の6月播き減農薬栽培	… 6

露地シシトウガラシの新病害 「葉枯細菌病（仮称）」



葉の病斑



茎の病斑

平成15年5月に幡多郡下の露地栽培シシトウガラシで発生した障害は、*Pseudomonas cichorii*という細菌による新しい病害であることが明らかとなり、病名として「葉枯細菌病」とすることを提案しました。

葉では不整円形の濃い褐色病斑を形成し、多湿条件では水浸状の病斑が拡大して落葉することもあります。また、生長点付近に発生して芽が枯死したり、茎に条斑状の病斑を形成したりする場合もあります。

培養試験の結果、本菌は30℃付近でよく増殖しますが、接種試験による病勢の進展はやや低温の15℃付近で良好でした。また、トウガラシ類の品種により感受性に差が認められ、‘みはた1号’、‘土佐じしビューティー’と比べて‘土佐じし’、‘みおぎ’で耐病性が強い傾向にありました。

防除に当たっては、軟腐病や斑点細菌病に準じた防除対策を行うことで、被害が軽減されと考えられます。

（病理科 川田 洋一 088-863-4915）